

# 多文化関係学会ニュースレター



## JSMR Newsletter

第 25 号 2014 年 6 月

<http://www.js-mr.org/>

### ■目 次

多文化関係学会第 13 回年次大会について	2	
2014 年度年次大会へのいざない 2	大会概要のご案内 3	
基調講演 4	パネルディスカッション 5	プレカンファレンス 6
研究発表募集について 6	石井奨励賞 7	
2013 年度第 3 回理事会議事録 抄録	8	
地区研究会報告	12	
関東 12	関西・中部 13	中国・四国 14
地区研究会案内	15	
関東 15	中国・四国 15	
会員による新刊紹介	16	
新入会員紹介	16	
お知らせ	17	
事務局より 17	WEB 委員会より 18	NL 委員会より 18
編集後記 19		

### ■CONTENTS

Announcements of the 13th Annual JSMR Conference	2	
Message from the Conference Committee 2	Conference Program (Proposed) 3	
Keynote Address 4	Panel Discussion 5	Preconference 6
Call for Papers 6	The Ishii Yoneo Award 7	
Minutes of the Board Meeting	8	
Report on the Regional Study Meetings	12	
Kanto 12	Kansai・Chubu 13	Cyugoku・Shikoku 14
Announcements on the Regional Study Meetings	15	
Kanto 15	Chugoku・Shikoku 15	
New Publications	16	
Introducing New Members	16	
Announcements	17	
From the Business Office 22	From the Web Committee 22	
From the News Letter Committee 18	Editor's Notes 19	

## 多文化関係学会 2014 年度年次大会

「他者」に対する社会的排除と差別：  
少数派の視点から考えるアカデミアとメディアの役割と責任

Social exclusion and discrimination of "the other" in Japanese society:  
The roles and responsibilities of academia and media  
seen from the perspectives of minorities

【開催日】 11 月 8 日（土）および 9 日（日）

【会場】 コラッセふくしま（福島県福島市）

【主催】 多文化関係学会・福島大学

研究発表の募集を行います。

応募要領は、学会ホームページ(<http://www.js-mr.org/>)をご覧ください。

<〆切：7 月 25 日（金）>

第 13 回年次大会

## 多文化関係学会 2014 年度年次大会へのいざない

第 13 回年次大会は、11 月 8 日（土）・9 日（日）の両日、コラッセふくしま（福島県福島市）で開催されます。大会前日の 7 日（金）には、東日本大震災の被災地を訪ねるフィールドワークが企画されており、福島県南相馬市観光ボランティアガイドとして語り部活動をする安部あきこさんと共に、地震と津波の後の南相馬市を訪ね、被災地に暮らす方の声に耳を傾けます。

今回の大会開催の運営方法は、大会開催校が運営主体となる従来の方法とは異なり、まず開催地を決定し、大会開催に関わるマネジメントをシステム化する方法を取っています。下記の世話役 7 人が中心となりますが、多くの会員が主体的に関わることができる運営方法を考えていく予定です。ですので、会員からの新企画やボランティアを積極的に募集しています。ご関心のある会員は、メールでご連絡をお願いします（[jsmr2014taikai@gmail.com](mailto:jsmr2014taikai@gmail.com)）。

また、大会の詳細を決定する過程で、本ニュースレターに掲載されている情報に若干の変更があるかもしれないことをご了承ください。

### 【大会運営世話役（アイウエオ順）】

石黒 武人（明海大学）

小田 眞幸（玉川大学）

河野 康成（立教大学）

小坂 貴志（神田外語大学）

今野 貴之（明星大学）

中川 慎二（関西学院大学）

李 洙任（龍谷大学）

## 2014 年度年次大会概要のご案内

日時		場所
11 月 7 日 (金)	プレカンファレンス	南相馬市
11 月 8 日 (土)	大会初日	コラッセふくしま
11 月 9 日 (日)	大会二日目	

## 大会プログラム

11 月 7 日 (金)	プレカンファレンス	13:40 ~ 16:45
	東日本大震災 被災地を訪ねるフィールドワーク 「震災、津波、原発事故 —ふるさと回帰と菜の花プロジェクト—」	
11 月 8 日 (土)	研究発表 1	10:00 ~ 11:05
	研究発表 2	11:15 ~ 12:20
	昼休み	12:20 ~ 13:20
	パネルディスカッション 1 マイノリティと災害 FM	13:20 ~ 15:20
	オープンフォーラム	15:30 ~ 17:00
	ポスターセッション	17:10 ~ 18:00
	懇親会	18:05 ~ 20:35
11 月 9 日 (日)	研究発表 3	10:00 ~ 11:05
	総会	11:10 ~ 11:40
	昼休み	11:40 ~ 12:40
	NPO ビデオレター公開 多文化関係、復興支援関係の情報の提供	12:40 ~ 13:00
	基調講演 異文化間哲学における他者理解の課題 —歴史と文化のハイブリッド化現象と境界をめぐって— 牧野英二氏 (法政大学文学部教授)	13:00 ~ 14:00
	パネルディスカッション 2	14:15 ~ 16:15
	閉会の挨拶	16:15 ~ 16:30

## 基調講演

11月9日(日) 13:00~14:00

### 「異文化間哲学における他者理解の課題

#### —歴史と文化のハイブリッド化現象と境界をめぐって—

牧野英二（法政大学文学部教授）

本講演の目的は、「異文化間哲学」「相互文化哲学」(intercultural philosophy)の立場から、今日顕著な差別・偏見・格差や排除の論理とその解決の手がかりを提示することにある。日本社会は、政治・経済・金融等だけでなく、文化や科学技術のあり方も危機的状況にある。東日本大震災の被災地では、日本の伝統文化が破壊され、在日外国人にも被害を与えた。その後、生活の場で格差が拡大し、ヘイトスピーチ等の民族差別や排除、ヘイトスピーチとナチス・ドイツの礼賛運動との結びつき、ブラック企業による雇用差別や被災地での新たな差別や偏見が顕在化した。STAP細胞ねつ造問題も、自然科学偏重・人文社会科学軽視に由来する「ハイプ」(Hype)の一例である。今日、心の歪みと社会の歪みは顕著である。学問研究や大学教育の現場でも、その例外ではない。コストという物差しによる「境界」設定がはびこり、他者の排除の論理も激化している。これらはすべて、暴力性の現れである。同じことは国際関係でも生じている。こうした理由から筆者は、今回の大震災・原発事故以降、日本社会が近代以来最大の危機に直面している、と考えている。

筆者は、上記の問題意識に即して、広義の「他者」の理解と差別や排除をめぐる課題解決の方向性を考えてみたい。この問題は、「境界」設定と異質な他者の自己への同一化という暴力とも不可分である。国家による「境界線」の設定は、同じ人間を国家の成員とし、他の人間を「外国人」、「在日」として差別や排除の対象としてきた。38度線による同一民族の分断という悲劇や「領土問題」、そして原発の避難区域における「居住制限区域」等の指定と補償金額の格差は、いまでも続く歴史の実例である。非人間的で反倫理的な排除や差別は、なぜなくなるのか。これらの疑問は、自己と異なる他者の歴史的生の体験とその表現の理解はどのようにして可能か、という困難な問題の解決を迫っている。この課題には、自己と他者のコミュニケーションや表現行為の暴力性、言語の隠蔽機能、表現の翻訳(通約可能性)の困難さが結びついている。同じ地球上に生きる人間が、複雑な歴史的・社会的経緯の中で多様な文化や言語を作り上げ、相互の理解の困難さとその克服の努力が複雑に纏れている多文化社会の中で、これらの課題にどう取り組むべきか。

筆者は、この課題解決のために第一に、日本社会における歴史と文化の錯綜した現状を「歴史と文化のハイブリッド化」として解釈する。第二に、この錯綜した状況を的確に把握するために必要な問題解決の手がかりを提示する。その際、多数者による少数者への暴力、強者による弱者への構造的な暴力とともに加害性と被害性との「パラドクス」も見逃してはならない。第三に、日本社会の画一化・全体化と一見矛盾するエゴと孤立、他方で内実の欠けた「共生」や「連帯」の陥穽に陥らないことが肝要である。これらは、同型性や画一性を求め、異質な他者、自己と異なる感じ方・考え方、自他は交換不可能である事実等を理解できない点に共通の根がある。そこで、これらの問題に直面したハンナ・アーレント(Hannah Arendt)が用いた「ひとりぼっち」(loneliness)、「見捨てられていること」(Verlassenheit)ないし「孤立」(isolation)と「孤独」(solitude)との区別を手がかりにして、日本社会、特に福島県民の状況、および国際社会、最近緊張を増してきた東アジアにおける日本の歴史と文化のゆくえを展望してみたい。

**【講演者略歴】**専門領域は、近代及び現代哲学、倫理学、美学、感性学、精神史の研究。特にカント、ディルタイ、ハイデガー等ドイツ哲学や哲学的解釈学、アーレントの政治哲学、英米系の判断力論、和辻哲郎の倫理学、三木清の歴史哲学・構想力論、笑いや驚異など感情の感性工学的分析、サステイナビリティ・フィロソフィー他。主なる研究業績は、(以下すべて単著)『カント純粋理性批判の研究』(法政大学出版局、1989年)。『遠近法主義の哲学』(弘文堂、1996年)。『カントを読むーポストモダニズム以降の批判哲学』(岩波書店、2001年。韓国語訳2009)。『崇高の哲学 - 情感豊かな理性の構築に向けて』(法政大学出版局、2007年)。『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！和辻倫理学の今日的意義』(法政大学出版局、2010年)。『「持続可能性の哲学」への道』(法政大学出版局、2013年)。学会活動は、日本カント協会会長、日本ディルタイ協会会長など。2011年5月から始まった「てつがくカフェ@福島」の世話役。

## パネルディスカッション1 11月8日(土) 13:20~15:20

### 「マイノリティと災害FM」

パネラー：吉富志津代（ファシリテーター）

日比野純一 吉田恵子 伊藤チャリト

1995年に発生した阪神淡路大震災の際、神戸市長田区にあった「カトリックたかとり教会」に「たかとり救援基地」ができ、それが後の「たかとりコミュニティセンター」になった。そこでFMラジオというメディアを使ったマイノリティ支援とエンパワーメントの活動が始まった。それが「FMわいわい」の始まりである。

2011年に発生した東日本大震災では、30局の「FMラジオ」局が「災害エフエム」として設立され、FMわいわいは阪神淡路大震災以降に培った経験と知見を活かして「災害エフエム」の支援に取り組んだ。現在でも10局が放送を続けており、被災地のコミュニティ再生やマイノリティのエンパワーメントなどに大きな働きをしている。このパネルディスカッションでは、マイノリティのエンパワーメントにつながるFMラジオの活動と災害時のメディアの役割について議論する。

**吉富志津代**（大阪大学グローバルコラボレーションセンター）：専門は国際協力政策、公共政策。たかとりコミュニティセンター常任理事でもあり、FMわいわいの立ち上げから、神戸をはじめとする外国人住民のサポートやエンパワーメントの活動を支援し、大学でもその知見を教育に生かしながらグローバル人材育成に取り組んでいる。著書には『グローバル社会のコミュニティ防災 多文化共生の先に』（大阪大学出版会）など多数。

**日比野純一**（FMわいわい代表理事）：阪神淡路大震災をきっかけにFMわいわいの立ち上げに参加し、東日本大震災の被災地でもさいがいラジオ局の立ち上げやその後のサポートを行っている。また、海外でもコミュニティラジオを活用した被災地支援活動を展開している。共著に『小さなラジオ局とコミュニティの再生：3.11から962日の記録』（大隅書店）など。

**吉田恵子**（富岡町社会福祉協議会職員、富岡町生活復興支援「おだがいさまセンター」、おだがいさまFMラジオ）：大規模避難所となった「ビッグパレットふくしま」での支援活動からさいがいラジオ「おだがいさまラジオ」を立ち上げ運営している。

**伊藤チャリト**（バヤニハン気仙沼ラジオ）：国際結婚し日本に在住するフィリピン人で、FMラジオによるさいがい支援とエンパワーメントの活動をしている。

コーディネータ： 中川慎二（関西学院大学）

## パネルディスカッション2 11月9日(日) 14:15~16:15

### 「排除の構造と私たちの役割 —被災地とヘイトスピーチ—

メインパネリスト： 辛淑玉

パネリスト（予定）： 福島大学関係者

**辛淑玉**（実業家）：在日三世。人材育成コンサルタント。TRAI（Trans-pacific Research and Action Institute for the hisabetu-nikkei）東京代表。人材育成技術研究所所長。企業内研修、インストラクターの養成などを行うかたわら、テレビ出演、執筆、講演も多数こなす。2003年に第15回多田諤子反権力人権賞受賞。著書に、『怒りの方法』『悪あがきのすすめ』（ともに岩波新書）、『差別と日本人』（角川テーマ21）、『大人の女の流儀』（PHP研究所）など多数。

コーディネータ： 李洙任（龍谷大学）

**フレカンファレンス**  
**11月7日(金) 13:45~16:45**

**＜東日本大震災 被災地を訪ねるフィールドワーク＞**  
**「震災、津波、原発事故 —ふるさと回帰と菜の花プロジェクト—」**

福島県南相馬市観光ボランティアガイドとして語り部活動をする安部あきこさんと共に、地震と津波の後の南相馬市を訪ね、被災地に暮らす方の声に耳を傾けます。

東日本大震災の後、しばらくは被災したふるさとを語り部活動ができていた安部さんも、いまは震災、津波、原発のことを語り継いでいくことの意味を見出し、ふるさと回帰の活動をしておられます。また、観光ボランティアガイドとして語り部の活動をする一方で、南相馬市ふるさと回帰支援センターの企画部長として菜の花プロジェクトを推進する役割もしておられます。

今回の南相馬市でのフィールドワークは貸切バスで被災地を回る3時間のフィールドワークです。13:30に「道の駅南相馬」に集合し、13:45にバスで出発します。フィールドワークの前に、「映像とトーク」のセッションを安部あきこさんと一緒に行います（道の駅ホール、12:15-13:00）。

参加者への交通の便を図るために、バスをチャーターしました。仙台空港を9:45に出発し、JR仙台駅経由（10:15発）で、道の駅南相馬（原町）に向かいます。13:45からフィールド・ワーク（南相馬市）に出かけ、道の駅南相馬には16:45に戻ります。休憩と自由時間の後、バスはJR福島駅まで参ります。（19時到着予定）

ただし、13:30に現地集合し、南相馬市でのフィールドワークのみの参加も可能です。

**【参加費】**

- ・（全行程参加）仙台空港ないしJR仙台駅発—JR福島駅着：5000円（昼食弁当代1000円を含む）
- ・フィールド・ワークのみ（昼食弁当なし）：2500円

コーディネータ：中川慎二（関西学院大学）

第13回年次大会

**2014年度年次大会研究発表募集要項**

- ◆発表テーマ：本学会の趣旨に沿ったもので、未発表のものに限ります。
- ◆発表時間：30分（発表20分、質疑応答10分）
- ◆申し込み締め切り：2014年7月25日（金）
- ◆申し込み要領：多文化関係学会のホームページ（<http://www.js-mr.org/>）の発表募集要項のページから申し込んでください。
- ◆採択決定通知：発表内容を大会委員会で審査し、申込者全員に結果を電子メールで連絡します。8月20日（水）までに採択結果が届かない場合は、大会委員会まで、メール（[jsmr2014taikai@gmail.com](mailto:jsmr2014taikai@gmail.com)）または電話で（047-355-5120[代表] 明海大学外国語学部 石黒研究室 大会委員会）にお問い合わせ下さい。研究発表およびポスター発表、その他の抄録原稿の提出期限は、9月15日（月）で、大会参加費を事前に支払うことを要件とします。

◆大会参加費（事前申し込みは1,000円引き）

- 5,000円（正会員・当日払い）
- 3,000円（学生会員・当日払い）
- 6,000円（非会員一般・当日払い）
- 4,000円（非会員学生・当日払い）

\*\*\*\*\*

- 1,000円（福島県、宮城県、岩手県在住・非会員二日間で1,000円  
（上記地域在住・学生は無料）
- 福島大学関係者（学生も含む）無料

◆懇親会：大会会場「コラッセふくしま」内の「展望レストラン Ki-ichigo」にて開催予定。

懇親会参加費（事前申し込み500円割引）

- 5,500円（正会員・当日払い）
- 4,000円（学生会員・当日払い）
- 6,000円（非会員一般・当日払い）
- 4,500円（非会員学生・当日払い）

第13回年次大会

多文化関係学会研究発表 石井奨励賞

石井奨励賞は、若手研究者のキャリア開発支援のひとつとして、優れた研究発表を促進し、表彰するという目的のもと、次の手順で審査・表彰がおこなわれます。

- (1) **対象者**：年次大会において、単著による「口頭発表」もしくは「ポスター発表」をおこなう、次の①②いずれかの会員：①学籍のある大学院生；②大会時、任期に限りのある職に就いている教員。抄録送付の際、①②いずれの条件に該当するか明記すること。該当する会員すべてが選考の対象となる。
- (2) **審査方法**：【一次審査】抄録原稿（A4・4頁）により、若干名を選考する。※抄録2頁、共著発表の場合は対象としない。【二次審査】一次審査を通過した会員の口頭発表及びポスター発表の内容並びにプレゼンテーションを審査し、研究の将来性も踏まえた上で、若干名の受賞者を選考する。
- (3) **副賞**：2万円
- (4) **学会誌への投稿の推奨**：受賞者に対しては、対象となった発表を基にした完成原稿を次号の『多文化関係学』に投稿することを強く奨励するが、義務とはしない。なお、投稿された論文は通常の査読にかけられ、審査がおこなわれる。論文が採用になった場合、「石井奨励賞受賞論文」と明記の上、学会誌に掲載される。
- (5) **表彰**：年次大会後に発行されるニュースレターに、石井奨励賞受賞者氏名、論文タイトル、学術委員会によって結成された審査委員会による講評を掲載する。翌年の年次大会の総会において、受賞者の表彰がおこなわれる。

## 2013 年度第 3 回理事会議事録 抄録

日時：2014 年 3 月 29 日（土）13:00 - 20:10

場所：青山学院大学（青山キャンパス）ガウチャーホール 5 階 第 13 会議室

出席者（敬称略）：

石黒、抱井、笠原、小坂、今野、中川、松永、守崎、山本、李（計 10 名）

欠席者（敬称略）：

赤崎、大谷、小田、寛、渋谷、田中、舛谷、（計 7 名）

\*3 分の 2 以上出席の定足数を満たす（委任状出席を含む。審議事項理事会運営関係 2）。

議事録：今野 司会：小坂

### 【確認事項】

渋谷会員（理事）の退会に伴い、今後の財務業務は吉田直子会員が担当することが理事会で承認された。

### 【報告事項】（カッコ内は、報告・提案の担当者）

#### 1. 事務局報告（石黒理事）

現在の会員数は 354 名。年度途中の新会員の方への資料送付、学会が保有するリソース（ニューズレター）のデジタル化へ向けて国立国会図書館と調整中。

#### 2. 2014 年度年次大会準備状況（中川理事、小坂理事）

中川理事、小坂理事から、2014 年度の年次大会は、福島大学と本学会の共催でおこなうことが報告された。具体的な日程と場所は下記の通りの説明があった（理事会資料）。

日 程：2014 年 11 月 8 日（土）、9 日（日）

テーマ：『「他者」に対する社会的排除と差別：少数派の視点から考えるアカデミアとメディアの役割と責任』

会 場：コラッセふくしま

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま

<http://www.utsukushima.net>

使用料：約 12.5 万円

留意点：他の組織も使用しているため館内移動に関して検討する必要がある

#### 3. 各種委員会報告

##### （1）ウェブ管理・広報委員会（今野理事）

・会員への一斉メールの不着についてについて報告された。

##### （2）ニューズレター委員会（守崎理事）

・ニューズレター 24 号の発行および次号 25 号について報告された。



- ・紹介記事について

抱井会長から、6月末に韓国で開催される PACA（韓国版の JSMR）に本学会の会員が数名参加する予定があることが報告された。

### （3）地区研究会

- ・北海道・東北地区研究会（伊藤理事）：報告なし。
- ・関東地区研究会（山本理事）：2013年第2回関東地区研究会の開催報告がされた。
- ・関西・中部地区研究会（中川理事）：研究会記録報告冊子が作成され、関学から補助金を受けたが、委員長の10,000円の個人負担があった（審議事項を参照）。
- ・九州地区研究会（松永理事）：新規会員獲得と研究会開催をかさねる工夫をされたことが報告された。
- ・中国・四国地区研究会（田中理事）：報告なし。

### （4）HP 英語化プロジェクト（抱井会長）

英語化プロジェクトは、おおがかりの作業のため業者に委託することが必要との意見が出た。また、英語化の必要性は今は緊急性がないことから計画を立て、ニーズに沿った作業内容にすべきと意見がでた。

### （5）学会誌編集委員会（笠原理事、小坂理事）

『多文化関係学』10号発送完了、『多文化関係学』11号の投稿締め切り日の確認、竹内論文『多文化関係学』9号の Abstract 差し替え完了について報告された。

## 【審議事項】

### 1. 年次大会関連

#### （1）大会委員の人選

大会運営委員として小田、石黒、中川、李、河野、小坂、今野の7名が決定した。

#### （2）基調講演候補者について

下記の2点に関して留意した基調講演候補者について議論された。

- ・「14年度の大会テーマ」「福島」に適すること
- ・参加者を県内外からあつめること

#### （3）石井奨励賞の対象条件およびジャーナル投稿との関連について

企画委員会の名称を学術委員会（小田理事：委員長）と改めること、および、この学術委員会で石井奨励賞を検討することが承認された。また、これまで内規としていた石井奨励賞の対象条件を明文化し、その内容はニュースレター25号に載せることが確認された。

#### （4）2015年度年次大会の開催校

岡山大学（田中理事：大会実行委員長）で開催されることが決定した。

## 2. 理事会運営関連

### ・予算の承認方法

今年度より、予算承認をするための臨時総会を開くことが確認された。そのスケジュールは4～6月に行われる関東地区研究会と同時開催にすることが確認された。

上記を踏まえ、2014年度、2015年度のスケジュールは下記のような案に整理されたが2014年5月31日以降のスケジュールについては理事会 MLにて継続審議。

#### 2014年度

5月31日(土)：2014年度第1理事会(予算)＋臨時総会(予算)＋関東地区研究会

7月26日(土)：第2回理事会

11月7日(金)：第3回理事会＋全国大会＋(総会)

3月14日(土)：第4回理事会

#### 2015年度

5月下旬：2015年度第1回理事会／臨時総会

7月下旬：2015年度第2回理事会

10月：2015年度第3回理事会

3月中旬：2015年度第4回理事会

## 3. 各種委員会関連

### (1) 学会誌編集委員会(笠原理事)

下記の3点が確認、決定された

- ・学会誌の販売と価格設定について、これまでの議論を踏まえインターブックスから1800円で学会誌を売り出すことが決定された。
- ・論文誌に掲載された論文、研究ノート等を大学リポジトリに掲載する際には、CiNiiとの間で本学会が定めた条件に則った形で行われることが確認された。ただし年次大会の抄録を、リポジトリに載せるのは著者の責任となる。
- ・リポジトリ掲載への時限制限として、CiNiiと同時で3ヶ月経過したものは可とすることが確認された。

### (2) 地区研究会

#### 関西・中部地区研究会(中川理事)

学会から地区研究会の予算制限をかけ、その予算内で運営するようにそれぞれ努力していくことが確認された。2013年度分では関西・中部地区研究会に1万円を補填することが確認された。また、地区別に開催方法や規模が異なるため、年間各地区3万±1万を目安に2014年度予算として経常することが確認された。

#### 関東地区研究会(山本理事)

2014年5月31日関東地区研究会を臨時総会と合わせて開催することが決定した。ただし臨時総会で取り上げるのは、予算承認のみである。

### (3) ニュースレター委員会 (守崎理事)

委員 (任期 2 年) を辞任する場合、もしくは、委員の変更の場合は、担当理事の責任で行い、その結果を理事会 ML で報告し、Web にも掲載することが確認された。

### (4) 選挙管理委員会 (松永理事)

新しい理事を選出する際に、役職担当を理事候補への打診をしたうえで、新理事を決定していくことが確認された。会長選出は、自薦、他薦によって候補者を立て、新理事からの投票によって決定することが確認された。それら選挙に関わることについては、可能なものであれば 2014 年度から実施していくことが決定された。

### (5) 文書管理委員

2014 年度から文書管理委員をなくすことが確認された。これまで学会が保有している紙媒体の資料はデジタルデータにするか、現物を外部に委託して保管するかについて、それぞれ費用を調べ、判断する。その手続きに関しては、石黒理事 (事務局) を中心としてインターボックスに相談することが確認された。

### (6) 企画委員会

年次大会への投稿論文検討、石井奨励賞の選考を企画委員会で担うことが確認された。それに伴い 2014 年度第 1 回理事会、臨時総会 (2014 年 5 月 31 日開催) において「企画委員会」から「学術委員会」へ名称変更を提案することが確認された。

### (7) HP 英語化委員会

会員に協力を打診し、出来なければ業者に委託することが確認された。

### (8) 理事の人数

会長 1 名、副会長 2 名、理事 12 名、年次大会委員長 1 名を理事とすることが確認された。

### (9) 選挙管理委員

選挙管理委員長の裁量で必要な数の委員を追加することが確認された。

## 4. そのほか

### (1) 特定課題研究の新設

在日外国人不就学問題に関する特定課題研究プロジェクトチームの発足が承認された。

### (2) 今後の特定課題研究プロジェクトの SIG (Special Interest Group) としての位置づけおよび予算割り当て

本件に関することは学術委員会 (小田理事) に委任する方向で検討することが確認された。なお、具体的な内容に関しては今後の理事会で継続審議。

## 地区研究会報告



### ■関東地区研究会報告

日時：2014年2月23日（日）14:00-17:00

会場：東海大学代々木キャンパス

テーマ：教育ディベートの新たな可能性

話題提供者：綾部功（あやべ・いさお） 東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科

本発表の目的は、グローバル人材の育成手段として、高校・大学での英語教育のみならず小学校の国語教育等でも実践され注目されている「教育ディベート」の変遷と新たな可能性について研究発表を行うものである。

まず参加者によるディベートの体験学習が行われたが、論題に肯定・否定の観点を提示することから始まり、テキストの抜粋を使ったアクティビティでディベートの各要素及びその一連の流れを実践することができた。



続いて行われた、ディベートの概説とその構成要素に関する詳細な発表は、第二言語習得及び母語強化の実践的手段としての、ディベートの有用性を示すに十分なものであり、批判的・論理的思考を促しコミュニケーション能力を強化するという点においても、教育ディベートの多大な可能性を示すものであった。しかし他方、ディベートに対する批判も多く、「日本人及び日本語は議論に向かない。二項対立的状況で、自身の意見と反対の立場を貫くのは不自然である。理屈に固執し、社会では役に立たない」などと言われる。これらは、日本人の思考様式やコミュニケーションスタイルと深く関わるところであるが、これについては、引き続き行われた発表者と参加者による討議において、授業で自分の意見を明確に述べる事をためらう学生の態度と呼応すると指摘された。また、コロンビア大学 ESL クラスの実例などがビデオ資料で提示されたが、外国人に比べ日本人留学生の消極的態度が顕著であった。

上記の批判や問題点に対応することが、教育ディベートの未来を拓く一方策と考えられるが、今後の取り組みへの提言として、ディベートの本質に関わる研究のさらなる深化に加え、多様な外国人学生と多くの対戦機会を持つことや、異なる文化的背景を持つディベーターと日本人との議論の仕方等の比較研究の強化など、グローバルな視点からの提言がなされたことは、教育ディベートの今後の方向性を強く印象付けるものであった。

文責：山下 奈寿美（青山学院大学大学院）

## ■関西・中部地区研究会報告

日時：2014年3月27日

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス

---

テーマ：「覚悟と決断」の軌跡が浮き彫りにしたもの：京都朝鮮学校襲撃事件を取材して

話題提供者：中村一成（なかむら いるそん） ジャーナリスト

朝鮮民主主義人民共和国（通称北朝鮮）と日本の関係は、北朝鮮による日本人拉致と核開発の二点において極めて悪い。横田めぐみさん始め、多くの日本人がはまだ北朝鮮での生活を強いられている。日本の近郊を北朝鮮のミサイルが飛ぶ。日本人が怒るのは理解できる。

2009年12月4日、京都朝鮮第一初級学校（現在は第三初級と合併し移転）に「在日特権を許さない市民の会」を中心としたメンバー11名が押し掛けた。彼らは、「スパイ養成機関」「密入国の子孫」「キムチ臭いねん」などと怒号した。学校内には児童・生徒たちがいるにもかかわらずである。教室にいる年少クラスの子供たちがどんな心情であったか想像してみよう。立派な体格の高校生たちが、腕づくで11名をやっつけたい気持ちを我慢しているのを想像してみよう。中村氏は、ケリーナ・クレイグ＝ヘンダーソンのヘイトクライムに関する分析にふれ、在日被害者がアウェー感・喪失感・絶望感・無力感・不安感などの心理的ダメージを受けていると述べる。

日本人拉致とミサイル発射の件に対する抗議が、朝鮮総連にされるのであれば理解できる。はっきり言おう。政治的抗議を朝鮮学校に向けるのは、国際人道法の精神に反する。それにもうひとつ言わせてもらおう。「キムチ臭いねん」などというのは、抗議者の無教養がまる出しであり、主張者の人格が疑われる。両方とも日本の恥である。

在特会のデモのメンバー。そのデモに対し有効な措置をとらない警察。ヘイトクライムを事実上、容認している政治家。ジャーナリストであり、自らも在日三世である中村氏は、「本丸は極端なレイシストではなく、この社会の『常識』である」と述べる。中村氏が控えめに述べた分だけ、筆者ははっきりと言いたい。本当に悪いのは、在特会や警察や政治家ではない、日本国民であると。こんな「社会の常識」は変えなければならない。見て見ぬふりをするのは、卑怯である。弱い者いじめは止めさせなければならない。——表情を変えることなく淡々と述べる中村氏の心のなかに、在日が背負う運命の悲しみを垣間見たような気がする。

今回の事件で、思い出したことがある。『エーミルと探偵たち』や『点子ちゃんとアントン』などの児童文学で有名なエーリッヒ・ケストナー(1899-1974)についてである。あまり知られていないが、ケストナーは、1933年にヒトラーが政権を取る以前からナチス批判をしていた抵抗作家であり、戦時中は執筆が禁止されていた。そのケストナーの作品のひとつに『飛ぶ教室』がある。その中でつぎのような場面がある。

・・・・・・・・・・・・・・・・

クラスで弱虫といわれているウリー。数名の同級生が大きなくず入れにウリーを入れ、大地図を掛けるためにあるフックに吊るす。くず入れは教室の天井からぶら下がっており、ウリーは下りられない。先生はウリーの親友マティアスに、なぜこんな悪戯をとめてウリーを助けなかったのかと詰問する。ウリーが、「あまりに大勢なのでマティアスは止められなかったんです」と答える。そこで先生がクラス全員に言う。「行われたいっさいの不当なことに対して、それを犯し

た者に罪があるばかりでなく、それを止めなかった者にも罪がある」(高橋健二訳)

.....

ケストナーの意見に従えば、今回の京都朝鮮学校襲撃事件について、われわれ日本人は全員有罪ということになる。

文責：西田 隆雄 (関西学院大学非常勤講師)

## ■中国・四国地区研究会報告

日時：2013年7月13日

会場：岡山大学 津島キャンパス

---

テーマ：日中の個人間における意思疎通：実証研究から理論化へ向けて

話題提供者：奥西有理 (おくにし ゆり) 岡山理科大学

日本と米国の対人関係や、東洋と西洋のコミュニケーションの研究に比べて、日本と中国の対人的な意思疎通をめぐる異文化間心理学的な研究は、まだ開拓期にあります。そこでは西洋由来の理論のあてはまりを検証するだけでなく、現象に合わせた理論的修正や、独自の視点による理論や方法論の提案が期待されます。実証データの蓄積と、ボトムアップの理論化が求められている現在、実証研究の方法とデータから、今後の方向を探る機会を持ってみようというのが、この企画のねらいでした。当日は日中間の意思疎通を巡る研究の現状が紹介されたのち、呈示された葛藤事例への解釈が議論されました。参加者の中には中国や台湾の出身者もいて、多様な意見が聞けました。社会文化的文脈には伝統文化のみならず現代の社会事情も組み込まれており、多様な次元でのすれ違いが葛藤をもたらす可能を持つ、ということを再認識する貴重な機会となりました。

文責：田中 共子 (岡山大学)

## 地区研究会のご案内

### ★関東地区研究会★

日時：2014年5月31日（土）

会場：青山学院大学（青山キャンパス）ガウチャーホール5階13会議室

テーマ：**コンフリクト・マネジメント入門**

話題提供者：鈴木有香

早稲田大学紛争交渉研究所招聘研究員、関西大学大学院非常勤講師、異文化教育コンサルタントとして日本人成人のための異文化理解、コミュニケーション教育に幅広い形で従事

スケジュール：

12:30-13:30 コンフリクト・マネジメント概観

13:30-13:45 休憩

13:45-15:00 ミディエーションのプロセスと必要なスキル

概要：

前半は、コンフリクト・マネジメントの方法の一つであるミディエーション（当事者の対話による解決の支援）を説明し、ADR促進法施行以降、国内で行われているミディエーションの現状や問題点について概観していきます。後半は、ミディエーション場面を段階的に提示しながら、ミディエーターに要求される配慮やコミュニケーション・スキルについて検討していきます。

### ★中国・四国地区研究会★

日時：2014年11月15日（土）13:00-14:00

会場：岡山大学・文化科学系総合研究棟204

テーマ：**国際社会への発信力：研究を多文化へ届けるには**

話題提供者：シミッチ・ミラ・ヤマシタ 岡山大学研究員

参加費：無料

## 会員による新刊紹介



### Soo im Lee 共著

*In Japan: Migration and a Multicultural Society*, Lydia N. Yu Jose and Johanna O. Zulueta (Eds.).  
Quezon City: Ateneo De Manila University. 2014年出版 150頁

Addressing important issues about Japan and migration, the book is divided into three sections. The first section, “Migration and the Empire,” looks at the beginning of migration in the modern world as being linked to imperialism and processes of nation-building that characterized geopolitics in the early years of the twentieth century. The second section, “Migration to Japan and the Birth of the Second Generation,” mainly addresses female migration to Japan and the children born of mixed marriages. The third section addresses the bigger issue of multiculturalism from a personal narrative and the experience of being “foreign” in Japan.

### Soo im Lee and Lisa Rogers 著

『Culture and Conflict -Changing the World for the Better／文化と衝突—多文化共生のために』  
松柏社 2014年出版 102頁

グローバル時代に必要なコンフリクト対応力を理解するための基礎概念を、多文化共生を切り口に書き下ろした英語リーディング教材である。日本社会ではコンフリクトを避けることによって、問題の本質を見逃すことが多々ある。コンフリクトがなぜ起こるのかを理解し、対応力を個々がもつことができれば他者との関係性を進展させるうえで有用な手段になる。コンフリクトに対応できるリーダーシップの育成も視野に入れた内容になっている。

## 新入会員紹介（敬称略）

会員資格	氏名	所属	研究分野
一般	古家 聡	武蔵野大学	異文化コミュニケーション
一般	前田 庸衣	Let' s Study English & Culture	英語教育 異文化教育 異文化コミュニケーション
一般	椿 まゆみ	文京学院大学	英語教育（主に語彙教育、児童英語教育）、異文化コミュニケーション
学生	奴久妻 駿介	一橋大学大学院	外国人児童生徒の市民性教育と居場所

(2013年11月1日～2014年4月30日に入会された方)



# お知らせ

## 事務局より

このニュースレターが会員の皆様のお手元に届くころには、サッカーのワールドカップ（ブラジル大会）が各種メディアにて大きく取り上げられ、異文化、自文化、多文化関係に関する様々な言説が飛び交っているのではないかと想像いたしております。以下、事務局からのお知らせです。

### ◆学会費の納入について

今年度の学会費納入をお願い致します。その際、払込料金（手数料）の支払いにつきまして、会員の皆様の方でご負担お願いいたします。また種別の変更（例：「学生会員」から「一般会員」への変更）などありましたら、事務局へご連絡ください。

### ◆学会誌『多文化関係学』バックナンバーの購入について

本学学会誌『多文化関係学』の販売を株式会社インターブックスに委託いたしております。学会誌バックナンバーのご購入をお考えの会員の皆様は、恐れ入りますが、今後は学会事務局ではなくインターブックスにお問い合わせください。

ホームページ：<http://www.interbooks.co.jp/>

メールアドレス：[info\\_ml@interbooks.co.jp](mailto:info_ml@interbooks.co.jp)

電話番号：03(5212)4652      ファクス番号：03(5212)4655

なお、学会誌『多文化関係学』の論文は、論文検索サイトCiNiiにおいて順次掲載されております。

### ◆学会ホームページ「学生会員専用サイト」の会員番号とパスワードについて

学会ホームページ（HP）<http://www.js-mr.org/>では、登録情報の更新などを行える「学生会員専用サイト」があります。情報の確認及び更新をお願い申し上げます。学生会員専用サイトへのログインには、会員番号とパスワードが必要です。お忘れになった方は、事務局・石黒武人（[admin@js-mr.org](mailto:admin@js-mr.org)）までお問い合わせください。

### ◆特定課題研究グループについて

昨年度秋に事務局が募集した「外国籍の子どもの不就学問題」に関する特定課題研究グループの設置が理事会で正式に承認されました。以下の方々が本課題研究プロジェクトの参加メンバーです。

森田京子（青山学院大学）＊グループリーダー

児嶋きよみ（立命館大学大学院院生）

田中真奈美（東京未来大学）

Svetlana Paitchadze（北海道大学）

小村明子（上智大学アジア文化研究所客員所員）

吉田直子（成蹊高校講師）＊世話役

馬場智子（千葉大学）

稲田恭明（東京大学）

宇山小夜（北海道大学大学院院生）

湊邦生（立命館大学）

## WEB 委員会より

### ◆会員登録情報更新のお願い

新年度に伴い、ご所属・e-mailアドレスなど会員登録情報にご変更がある方は更新をお願いいたします。会員登録情報の変更は、学会ホームページの会員専用サイトを通して会員各自で行えます。登録情報を更新しなければ学会からのお知らせが届きません。また、e-mailアドレスについては、現在使用されていないアドレスの方がいらっしゃいますので、今一度ご確認ください。なお、IDやパスワードがお分かりにならない方は今野（takayuki.konno@meisei-u.ac.jp）宛に御連絡下さい。

登録情報変更手順は、以下のようになっています。

1. 多文化関係学会ホームページ（URL：<http://www.js-mr.org/>）を開く。
2. 「学会員専用サイト」をクリック。
3. 会員番号・パスワードを入力し、ログインボタンをクリック。
4. 登録情報更新をクリック。
5. 変更点を修正し、一番下の更新をクリック。

## NL 委員会より

### ★著作図書案内・海外シンポジウム参加報告記事募集★

ニューズレター（NL）委員会では、次回 26 号（2015 年 2 月発行予定）掲載記事として、会員の皆様の著作図書案内、海外シンポジウム参加報告、震災関連や多文化関係学会に関連した研究、関連学会参加報告記事を募集しております。以下（1）（2）の記事を NL 委員会に送ってくださいますようお願いいたします。

#### ○募集する記事の内容

（1）学会の趣旨に関連すると思われる著作、訳書などを出された場合

- ・募集対象とする著作の発行時期：2014 年 6 月から 2014 年 12 月末まで
- ・書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の内容を 120 字以内で紹介したもの

（2）学会に関連する海外のシンポジウムもしくは震災関連のシンポジウムに参加された場合

- ・募集対象とする時期：2014 年 6 月から 2014 年 12 月末まで

●記事の送付期日：2015 年 1 月 6 日

●記事の送付先：NL 委員会 守崎 誠一宛（[morisaki@kansai-u.ac.jp](mailto:morisaki@kansai-u.ac.jp)）

## 編集後記

本NLで詳細をお伝えしましたように、福島での年次大会の開催がだんだんと近づいてきました。大会の成功のカギは、どれだけ多くの方々に大会に参加をしていただけるかだと考えています。会員の皆様はもちろんのこと、身近におられる非会員の方々にも広く周知をしていただき、多くの方々の参加によって大会が盛況のうちに終わることを願っています。

(守崎 誠一、大谷 みどり、古谷 真希)



多文化関係学会